

ながせ とくべつきかく
「NAGASEカップ」特別企画

子ども記者がパラスポーツを 体験&取材したよ!

ナガセヴィータの
従業員とご家族が参加!

「パラアスリートと語ろう、体験しよう! 子ども記者プログラム」(主催: 読売新聞社、長瀬産業)が開催されました。小中学生が参加したこのプログラムは2回のイベントで構成されており、1回目は車いすレーサーなど3種のパラスポーツを体験して松永仁志選手兼監督取材、2回目は陸上競技大会「NAGASEカップ」でレースに参加したり、ブラインドランナーの和田伸也選手とガイドランナーの長谷部匠選手に取材したりしました。さて子ども記者たちはこのプログラムで、どんなことを学んだのでしょうか?

ブラインドランナー
和田伸也選手

1977年生まれ。大阪府出身。高校生の頃に網膜色素変性症と診断され、大学在学中に視力を失う。28歳から趣味程度でジョギングを始め、2009年度から日本ブラインドマラソン協会強化指定選手に。ブラインドマラソン(T11)の世界記録(2時間23分27秒)保持者。2018年より長瀬産業に所属。

ガイドランナー
長谷部匠選手

1997年生まれ。京都府出身。中学校では野球部に所属、高校から陸上部へ。就職して市民ランナーとしてレースに出場しているうちに和田選手と出会い、ガイドランナーに。3年前に行われたパラスポーツの国際大会では2つのメダル獲得に貢献した。2022年より長瀬産業に所属。

陸上競技(車いす)

松永仁志選手兼監督

1972年生まれ。大阪府出身。18歳の時にパラ陸上競技を始め、目標としていた国際大会への出場を2008年から3大会連続で達成。現在は岡山県でチームの監督として若手を育成するとともに、「障害者も健常者も共に走る」をテーマとする陸上教室を開いている。

「NAGASE
カップって
どんな大会?

日本パラ陸上競技連盟(JPA)と公益財団法人東京陸上競技協会が主催し、長瀬産業が特別協賛する陸上競技大会(WRKワールドランニング対象・WPA※公認)。障がいの有無を問わず競い合う「誰もが参加できるインクルーシブな大会」です。

※世界のパラ陸上競技を統括する世界パラ陸上競技連盟(WPA, World Para Athletics)

選手と一緒にパラスポーツを体験&取材!

パラスポーツ体験イベント in 岡山

8月3日(土)には山陽ふれあい公園総合体育館(岡山市赤磐市)で子ども記者たちがパラスポーツを体験し、松永選手兼監督へのインタビューにもチャレンジしました。



1 車いすレーサー

競技用の車いすは「レーサー」と呼ばれていて、後輪の外側に付いている輪(ハンドリム)を回して前進します。



レーサーの操作は最初とても難しく、特に曲がるのが大変でした。だんだん慣れてきて、後半はとても楽しかったです。
小学6年生 山田しのぶさん

2

ボッチャ

目標にどれだけ近くボールを投球できるかを競うスポーツ。障がいのある人のためにヨーロッパで考案されました。



自分の赤いボールを、相手の青いボールよりも(目標の)白いボールに近づけるように頑張りました。面白かったから、またやりたい!
小学3年生 三宅健太さん

初めての経験にドキドキの連続!

3 ブラインドウォーク

アイマスクで目隠しをしたブラインド役がガイド役の肩に手を置き、ジグザグ道や段差のあるコースを歩きます。

目隠しをしていると、自分一人で物を乗り越えることは難しかったです。助けてくれる人がいることがとても大切だと思いました。
小学6年生 佐井美月さん



目隠しをすると歩くのが急に怖くなる!

松永選手に聞いてみた!

Q 車いすを使う生活で大変なことは何ですか?

A 歩道をふさぐように自転車が停めてあったり、車いす用のスロープ(ゆるやかな坂)のそばにクルマが停めてあったりすると、通れなくて困ります。

Q 競技を始めた頃、憧れの選手はいましたか?

A 当時の世界王者、ハインツ・フライ選手(スイス)に憧れていました。「絶対に彼に勝つ」という目標を持ってたおかげで練習をがんばれました。

何事も続けることが大切 自分ができる100%の努力を

松永仁志 選手兼監督
僕は学生時代まで健康者で、陸上競技をしていました。交通事故に遭って車いす生活になり、「何かできることはないかな?」と思ったのがきっかけでパラスポーツを始めました。最初は大きな目標を持っていたわけではありません。でも続けているうちに「日本一」、そして「世界一」を目指すようになりました。思うように結果が出ない時もあるけれど、それでも100%の努力を続けることが大切です。皆さんも夢を見つけたら諦めずに努力をしてください。



選手を応援

和田選手は長谷部選手と共に、障がいのない人も一緒に参加する1500mのレースに出場して、力強い走りを見せてくれました。



力強い走りに感動!

走っている和田選手と長谷部選手の息がぴったりです。二人ともお互いのことを信頼しているのがよく分かりました。
小学6年生 伊原智仁さん



一般的なランナーと同じレースに出場してすごいスピードで走る和田選手とガイドする長谷部選手はとってもカッコ良かったです!
小学3年生 塩見美織さん

努力を続けるには「目標」が大切

モチベーションを維持するのはなかなか難しいことですが、NAGASEカップをはじめ、何か目標を決めると計画を立ててがんばることが出来ます。長谷部選手がしてくれているガイドランナーは、僕のペースに合わせたり、コースについて教えてくれたり...と、大変な仕事です。競技以外では、頼んだ場所に迎えに来て、案内してくれることもあります。いつも一生懸命に支えてくれる長谷部選手には本当に感謝しています。

選手を取材

子ども記者たちはレースを終えたばかりの和田選手と長谷部選手に取材して、レース中のことや普段の練習について質問しました。



和田選手はマラソンの試合前になると「毎日25~30kmも走っている」と聞いてびっくりしました。私も見習ってがんばります!
小学4年生 谷本夏凜さん

インタビューに挑戦したよ!

和田選手と長谷部選手に聞いてみた!

Q 和田選手が走っていて不安なことは何ですか?

A 転んでケガをすることです。道路だと段差でつまづくことがありますが、車や自転車、混雑したところでは、人とぶつかりそうになることもあって、不安に感じます。

Q 長谷部選手が一番やりがいをを感じることは?

A 和田選手とレースに出ていい記録が出たり、メダルを獲得したりした時は、個人で出した結果よりも大きな充実感や達成感が得られます。

ガイドランナーで陸上競技に恩返しを

長谷部匠 選手
僕がガイドランナーになったのは、当時、和田選手のガイドランナーをメインで務めていた方から「力を貸してほしい」と連絡をもらい、「これまで取り組んできた陸上競技に恩返しができるのではないかな?」と思ったのがきっかけでした。和田選手と一緒にがんばっていく中で、国際大会のレースに出場するなど、貴重な経験をたくさんさせてもらっています。これらの経験を通して、自分自身の成長を実感しており、和田選手には感謝しています。

選手と一緒に昼食会!

イベント終了後、子ども記者たちは松永選手との昼食会へ。おいしいお弁当を食べながら、体験したばかりのパラスポーツの話題で盛り上がりしました。

いただきまーす!





みんなが笑顔の
楽しい大会でした!

NAGASEカップ

NAGASEカップは障がいのある人もない人もみんなが心からイキイキと楽しんでいる、とてもよい大会でした。障がいがあっても前を向いて生きている和田選手のお話を聞いて、自分もそんな考え方をもちたいと思いました。

小学6年生 伊原智仁さん



パラスポーツの
魅力が分かりました

岡山イベント

これまでは障がいのある人がするスポーツをあまり知らなかったけど、ボッチャをやってみて、とても楽しかったです。車いすレーサーにも乗ることができて、いろんな興味が湧いてきました。

小学6年生 佐井美月さん



パラスポーツ体験と「NAGASEカップ」の取材を終えた感想は?

これからもずっと
続けてほしい

NAGASEカップ

普段の生活の中では、障がいのある方と一般の方が一緒に競い合ったり、協力したりするチャンスはなかなかないので、NAGASEカップはいい機会だと思いました。これからもずっと続けてほしいです。

中学2年生 長尾寧々さん

岡山イベント

松永さんに「目標や夢を叶えるために大切なこと」を質問したら、「誰だって成功も失敗もするんだから、どんどん挑戦すればいい」と答えてくれたのが印象的でした。私も夢に挑戦して叶えたいと思います!

小学4年生 谷本夏凜さん

松永さんみたいに
私も挑戦します!



和田選手や長谷部選手を応援している 長瀬産業株式会社ってどんな会社?

長瀬産業は化学品を中心に事業を展開し、輸出・輸入など商社としての役割に加えて、製造・研究開発にも関わり、多彩な価値を生み出す企業として発展してきました。豊かな暮らしやサステナブルな社会の実現に貢献する素材を開発・提供するナガセヴィータもグループ会社の一つです。スポーツやアスリートへの支援を通じた地域の振興や社会貢献にも積極的に取り組んでいて、2022年から陸上競技大会「NAGASEカップ」に特別協賛しています。

<https://www.nagase.co.jp/glance>



NAGASE
Delivering next.